

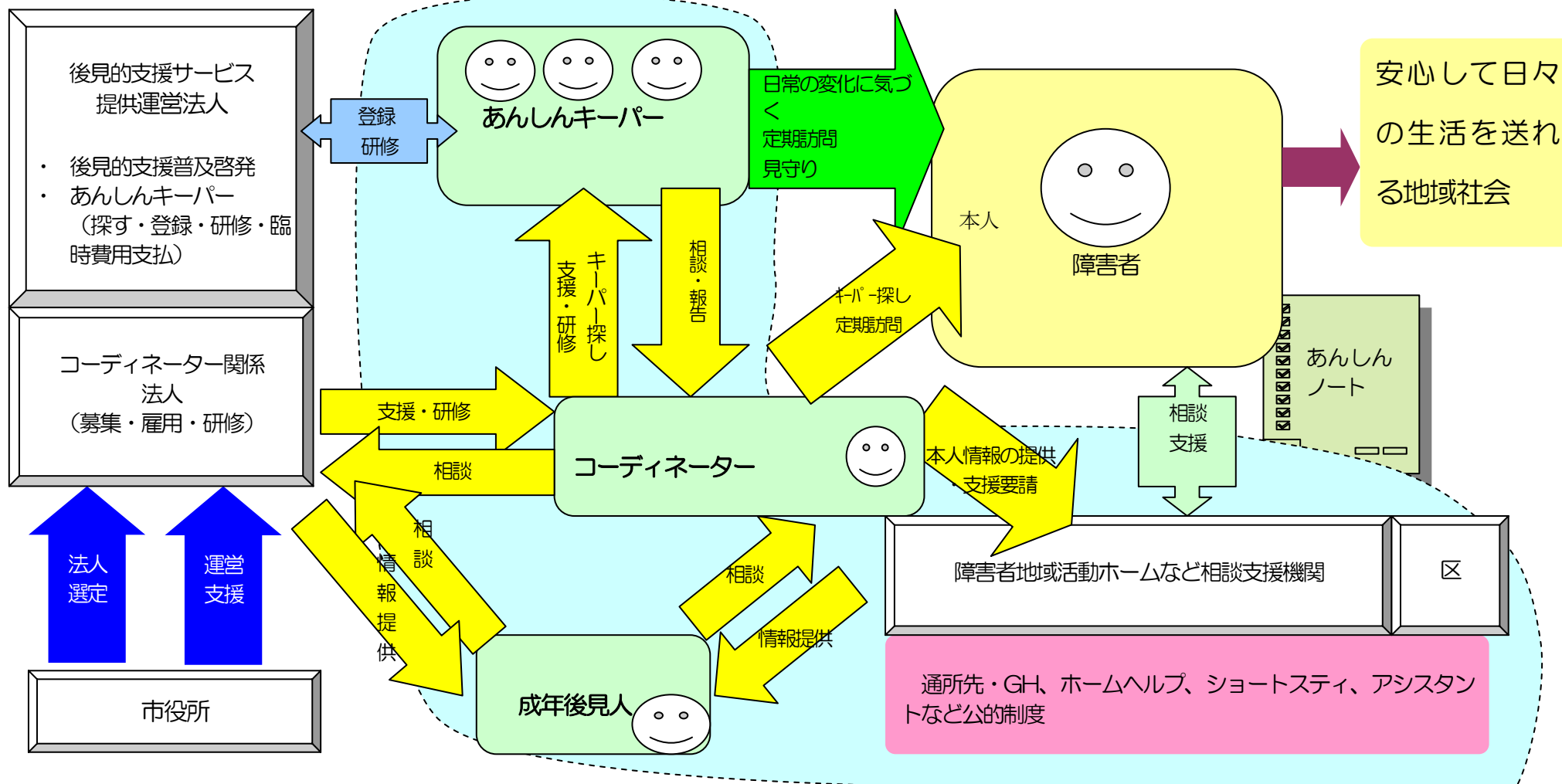
# 平成 21 年度第4回後見的支援推進プロジェクト (障害者施策検討部会専門委員会)次第

平成 21 年 8 月 18 日 (火) 午後 2 時～  
関内中央ビル (公社側) 3 A 会議室

- 1 前回の議論の整理
- 2 後見的支援の仕組み (案) の検討
- 3 まとめ

次回開催日 9 月 15 日 (火) 午後 3 時 30 分～5 時 15 分  
開催場所 松村ビル別館 (503 会議室)

「親なき後も地域であんしんして暮らすために、親ある今のうちから「本人」を支える仕組みを考える」

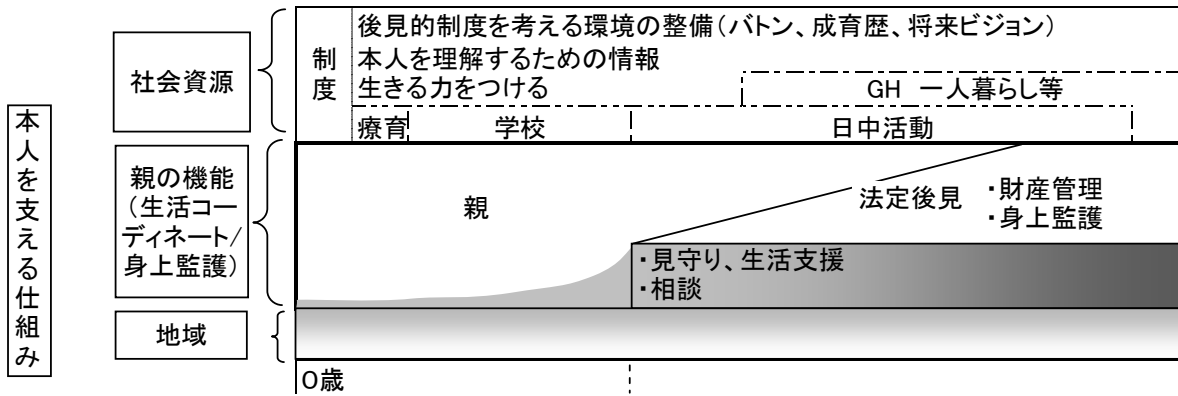


チーム後見・支援

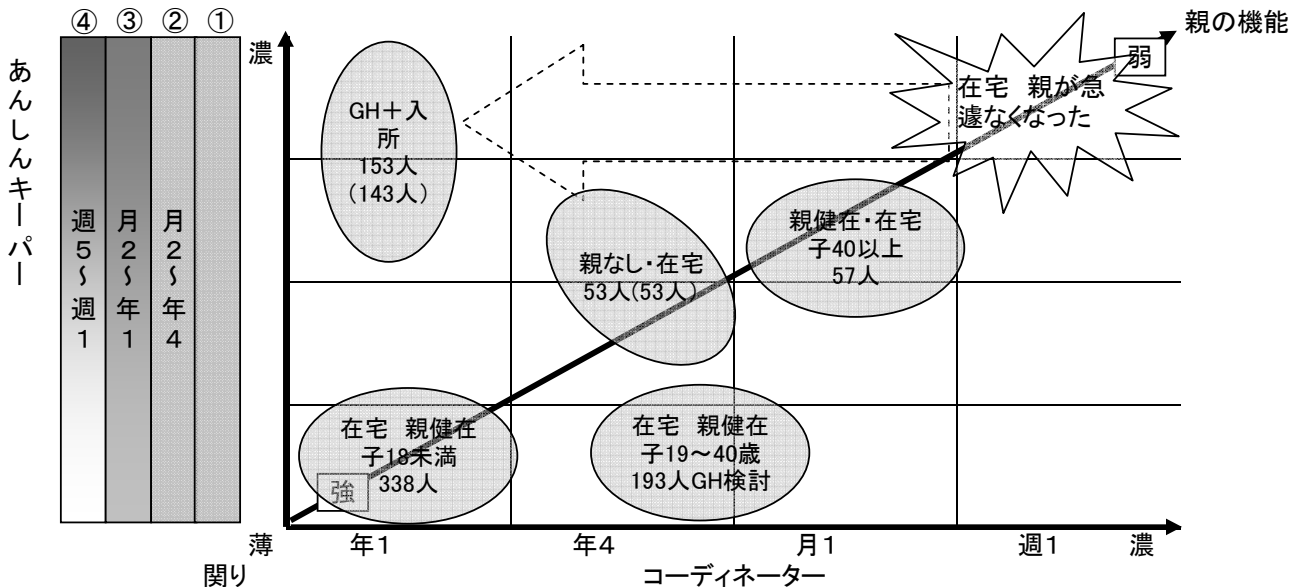
【事例】知的障害(在宅・将来グループホームと想定)

ライフ ステージ	出来事	親の行動	担い手				
			利用可能サービス・制度		利用の際の相談窓口		
日常	誕生～ 幼児期	告知、受容、訓練 会、親の会	情報収集			○	福祉保健センター、地域コーディネーター、病院
			療育、訓練	○	通園施設	○	児童相談所、地域療育センター
			送迎	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
		専門病院	通院	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
	就園	保育園、幼稚園	情報収集				
			就園相談	○	相談	○	福祉保健センター、地活相談
			通園送迎	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
			通院	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
	就学	特別支援学級	情報収集				
			学校訪問				
			就学相談	○	相談	○	養護教育総合センター
			通学送迎	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
	進学	特別支援学校	通院	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
			情報収集				
			就学相談	○	相談	○	養護教育総合センター
			学校見学				
			中等部通学バス停まで送迎	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
			通学の訓練(中3/送迎・尾行)		なし		なし
	通所	更生施設、作業所等	通院	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
			情報収集				
施設見学							
相談			○	相談	○	福祉保健センター、地活相談	
研修送迎			○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所	
通所の訓練				なし		なし	
通院			○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所	
将来	生活の場の確保 (グループホーム入居)	情報収集			○	福祉保健センター、地活相談	
		グループホーム探し、見学			○	福祉保健センター、地活相談	
		相談	○	相談	○	福祉保健センター、地活相談、社協	
生涯を通して	医療	薬の管理、投薬、薬塗布	○	グループホームなど	○	グループホーム世話人など	
		通院、送迎	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所	
		情報収集					
		意志決定		なし		なし	
	日常生活の支援	財産管理	財産管理	○	成年後見制度	○	成年後見人
			契約行為	○	成年後見制度	○	成年後見人
			日常の金銭管理	○	グループホームなど	△	グループホーム世話人など
			諸手続	○	グループホームなど	△	グループホーム世話人など
	日常の介助	食事、入浴、トイレ、歯磨き		○	グループホームなど	○	グループホーム世話人など
見守り	見守り	△	グループホーム世話人・事業所職員など				
緊急時	生涯を通して	緊急時の初期	社会資源調整			○	福祉保健センター、地活相談
		本人の病気・怪我による入院	付き添い入院		なし		なし
		親の冠婚葬祭な	本人を預ける	○	短期入所	○	入所・通所施設
		親の病気(自宅療養)ケース1	本人を預ける	○	短期入所	○	入所・通所施設
		親の病気(自宅療養)ケース2	サービスを依頼する①	○	送迎(ガイドヘルプ)	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
		親の病気(自宅療養)ケース2	サービスを依頼する①	○	ホームヘルプ	○	福祉保健センター、地活、実施事業所
		親の病気(親の入院)	本人を預ける	○	短期入所	○	入所・通所施設
		親の休養	本人を預ける	○	短期入所	○	入所・通所施設

後見的支援推進プロジェクトで議論する部分(網掛け部分)



あんしんキーパーとコーディネーターの関り(イメージ図)



出典:障害者プラン(第2期)ニーズ把握調査  
※知的障害者回答者数811のうち、住まい不明11、在宅で親がいるかが不明な障害者を除いている。( )は18歳以上人数

コーディネーター

- ・本人のあんしんキーパー探しを支援し、本人とつなげる
- ・あんしんキーパーの研修
- ・本人が地域生活を送るために必要に応じて調整機関につなぐ
- ・緊急事態が起こった場合、本人に寄り添い、必要な対応を関係機関と調整する

あんしんキーパー(近隣の人・民生委員・親の会・サービス提供者・事業所職員など)

- ①日常生活の中で、挨拶等をし、変化に気付く・・・(地域の人1)
- ②友達的な関わりを通して、困りごとをキャッチしたり、余暇支援をしたりする・・・(コミュニティフレンド的な関わり)
- ③定期的に訪問し、変化に気付き支援者につなぐ・・・(地域の人2・親の会)
- ④日常支援の中で本人を見守り・変化に気付き、支援者につなげる・・・(GH・日中活動事業者)

あんしんキーパー・コーディネーターについて(プロジェクト等でのご意見)

<あんしんキーパー>

○機能

- ・ 一緒に出かける
- ・ 定期訪問(月2位)。電話。元気かどうかの確認  
→精神障害者の場合望まない人も
- ・ 定期的に見に行き、問題があったときに、キャッチして何かにつなげる
- ・ 困ったときに愚痴を聞いてくれ孤独な人を発見する
- ・ 成年後見制度を補完
- ・ 病院や区役所に一緒に行く
- ・ 服薬管理・金銭管理(精神)
- ・ 「何でも話していいんだよ」という安心感

○なり手・課題

- ・ 民生委員: 関わりに濃淡が出る。高齢者で手一杯。
- ・ 訓練会、活動ホーム、作業所のボランティアや支援スタッフ(職員以外の方)
- ・ 福祉系大学の人(アルバイトやボランティア的に関わる)
- ・ 地域でだれ、と決めなくても良い

○仕組み

- ・ 複数人で対応(年長者・同年代の人)
- ・ 「日常の変化に気づく」ためには、日常的な関わりが必要
- ・ ふらっと訪問できる立場(権限)が必要(委嘱状や謝金等)
- ・ 報酬は交通費くらい
- ・ だれがあんしんキーパーかわかるようにする
- ・ 民生委員の中に、障害委員会を作ると良い
- ・ 宅配業者を使う方法もある
- ・ 要援護者対策とからめられるとよい
- ・ GHを孤立させない(違う視点)

○課題

- ・ なり手がいないのでは?
- ・ ハードルを下げると期待できることが少なくなる
- ・ 今もその役割を果たしている人はいるが、今の仕事で手一杯
- ・ 個人情報の問題
- ・ 親がかかりきりになっている人のあんしんキーパーを探すことが難しい
- ・ 精神障害者の中には、少し関わったらすぐ求めてくる人も出るだろう(寄りかかってしまう人もいるかも)
- ・ 報酬をどうするか

<コーディネーター>

○機能

- ・ 本人の希望と目標に基づく本人の自立支援計画を支援する
- ・ 親と本人のライフプランを描く
- ・ ライフプランに基づいて生活ができているかをチェックする
- ・ ライフプランの進行を支援する
- ・ 親と同じくらい、本人を理解し、尊重しながら支える
- ・ 親が担っている機能を役割分担する
- ・ 緊急事態にならないようにする
- ・ 地活の相談に入りながら、アシスタントより、もう少しマネジメント要素を高める（生活アシスタントのイメージ）
- ・ GHに住んでいる人にはGHをまわる
- ・ 普通のそれほど大きな問題がない家族に対して動く
- ・ チームであってもキーパーソンが必要
- ・ 「本人」だけの場合：
  - 本人とあんしんキーパーの調整役
  - 本人を困むチームの調整役
  - 本人の日常生活調整
- ・ 「本人・家族」の場合：
  - 本人及び家族支援（最初は1件1件訪問して、家族の話をよく聞く。生きる力をつける支援。情報提供。力の弱い家族には一緒について区役所等に行く、等）
  - あんしんキーパー探しの支援、調整役

○仕組みについて

- ・ 相談機能を持った地活に属し、このコーディネーター自体も「チーム」とする。
- ・ 3区に1か所ずつ相談支援事業所のポストを作って、緊急時はそこが対応する
- ・ バックアップ組織が必要（障害のことを良く知っている組織）
- ・ 区社協＝あんしんキーパーの登録やコーディネーターの所属

○なり手

- ・ 障害者の暮らしを本当に知っている人
- ・ 揺さぶりをかけられる人
- ・ 関係性のある人

○現在の状況について

- ・ 現在、GHに住んでいる人の「あんしんキーパー」探しはGH職員が行っているはず。
- ・ 同じようなことを現在、本人の「身近な相談者」となっている人が結果としてやれている場合もある。
- ・ 大きな課題のない人は取り残されてしまう

○課題

- ・ 緊急時のみではできない
- ・ あんしんキーパー探しのみというのは考えがたい
- ・ 活動ホームが情報を持っているので活動ホームが支援に行けばよい
- ・ 本人発で相談はできない
- ・ 法人の利益誘導にならないようにすべき
- ・ 相談支援事業者、区役所ワーカー、障害者支援センターコーディネーターのそれぞれの役割を明確にする必要がある。
- ・ 人が増えると混乱する
- ・ 個々人にとってのコーディネーター役を抑えていくことが必要（本当は個別支援計画の中にあるべき）

## プロジェクトでの検討内容

### <仕組み全体について>

- ・ 重度の人に対応している気がする
- ・ どんな仕組みを作っても、人材の量的・質的な問題はついてまわる。それが確保できないからと言って中途半端な仕組みをつくるのではなく、まずやってみること。その上で、将来的に、機能をできるところに置き換えていくなどの対応をとることも必要
- ・ 医療的ケアのある人への後見的支援はこの仕組みでは難しいので、別の仕組みが必要。

補完  
仕組み

- ・ あんしんノート・ライフプランが必要
- ・ 家族に対して、自分の子どもの将来生活のイメージが持てる支援が必要。

相談

- ・ 幼少期は、地活の相談・ピアカンなど、相談先があればよい。
- ・ 相談を受けるところが増えても、社会資源が増えないと解決しない
- ・ どこに相談すればよいかかわれば新たな機能を追加する必要はないのでは？
- ・ 相談先が増えると親御さんは混乱する

法人  
後見

- ・ 「法人後見」支援もしてもいいかもしれない。
- ・ 弁護士と福祉をつなぐ仕組みが必要
- ・ 成年後見の仕組みを普及させていくことが必要
- ・ 現行の成年後見の身上監護を保管するため、法人後見をしている法人の応援が必要
- ・ 緊急時登録制度の周知も必要。

### <仕組みの対象者>

- ・ 一人暮らしの人なのか、GHにいる人なのか、家族と暮らす障害者なのか絞ったほうが良い。

### <その他>

- ・ 今の親御さんは情報過多